

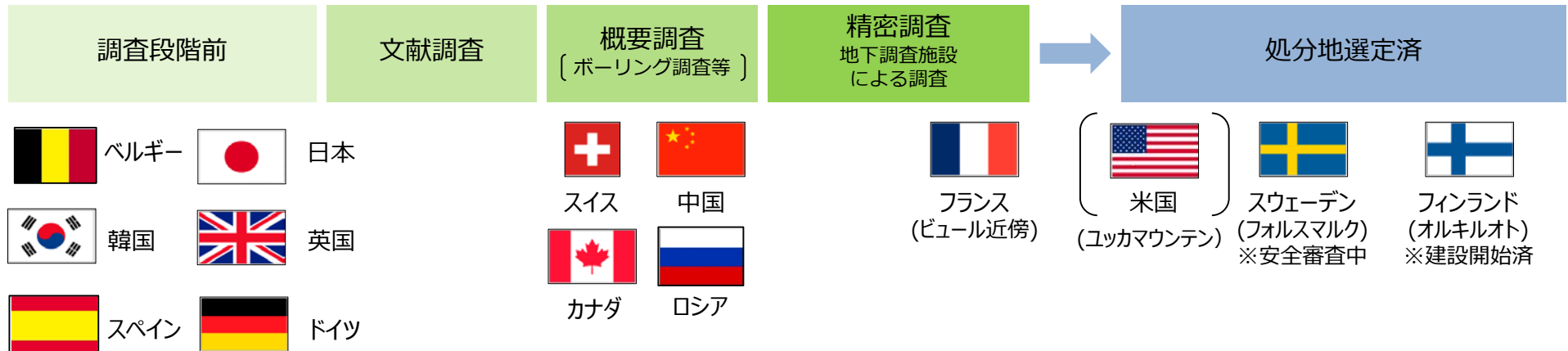
参考資料②
(最終処分の実現に向けた国際連携)

最終処分の実現に向けた国際連携の強化

- 高レベル放射性廃棄物の処分の実現は、**原子力を利用する全ての国の共通の課題**。
- 長い年月をかけて地層処分に取り組む各国政府との**国際協力を強化**することが重要。このような観点から、**世界の原子力主要国政府が参加する初めての「国際ラウンドテーブル」の立ち上げ**について、本年6月の**G20軽井沢大臣会合**で合意。
- これまでの**各国の理解活動における経験・知見を共有化**するとともに、**各国研究施設間の研究協力**や**人材交流の促進**を通じて、**地層処分の実現に向けた各国の取組みを後押し**していく。



「最終処分国際ラウンドテーブル」共同記者会見
(2019年6月16日、G20軽井沢大臣会合)



第1回最終処分に関する政府間国際ラウンドテーブル

- 開催日：2019年10月14日（パリ）
- 参加国：ベルギー、カナダ、中国、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、韓国、オランダ、ロシア、スペイン、スウェーデン、英国、米国、経済開発機構/原子力機関（OECD/NEA）、国際原子力機関（IAEA）
- 共同議長：資源エネルギー庁（日本）、エネルギー省（米国）
- 今後の予定：2回の会合での議論を踏まえて、最終処分に関する**政府間の国際連携強化に向けた基本戦略**や、**各国の対話活動の知見・経験・ベストプラクティス**や、**各国が有する研究施設等を活用した研究開発協力の方向性**等を盛り込んだ**最終報告書**をとりまとめ予定。



第1回最終処分に関する政府間国際ラウンドテーブルでの議論（概要）

①政府の役割と国際協力の意義

- 最終処分の実現は原子力利用国共通の課題。長年の研究により最も安全な処分方法とされている地層処分の実現に向けて、各国が透明で公正な理解活動を通じて社会的な信頼を得ながら、着実に取り組んでいくことが重要。
- 原子力政策・最終処分政策・地質環境など、国によって最終処分を取り巻く状況や政策的アプローチは異なるものの、国家レベルで大きな方針を示すこと、国家としての意思決定を行うこと、安全規制を含めて国民理解を得ていくこと、長期の研究開発を支えることなど、地層処分実現に向けて各国政府が果たすべき役割は重要。
- これまで専門家レベルで技術面を中心とした国際連携は実施されてきたが、国家戦略レベル・政策レベルでの国際連携はこれまで十分に実施されてこなかった中で、各国政府が参加する今回の国際ラウンドテーブルのイニシアティブを歓迎。

②国民理解活動

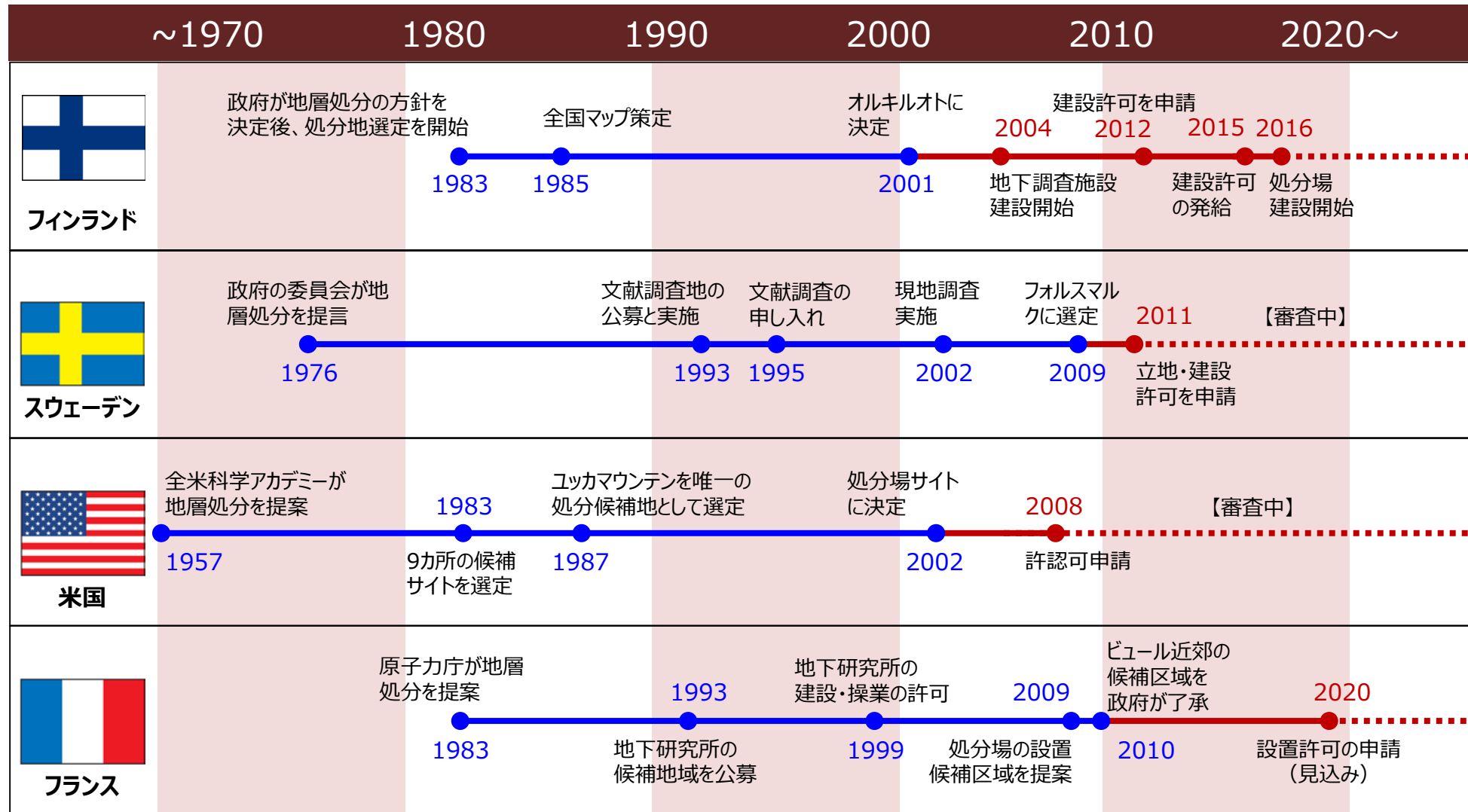
- 様々なステークホルダーがいる中での信頼の醸成、安全性に関する地域の理解の獲得、地層処分事業の地域発展への貢献などの分野において、各国の知見・経験・教訓を学び合うことが重要。
- 地層処分の実現に向けて、各国が直面する課題は、技術的というより、社会的・政治的なもの。一般の方々には放射性廃棄物にどう向き合うべきかわからないと考えており、それを乗り越えていくことが必要。
- 信頼獲得には、技術的な安全性を一般の人にも分かりやすい形で説明する努力を続けるとともに、SNS上の情報が人々の認識に影響を与え得ることも踏まえ、常に丁寧な情報発信を心がけるべき。
- 地域の学校やコミュニティと協働しながら、一般の方を研究施設に案内するなどして学んでもらう取組も効果的。
- 技術的な検討だけでなく、地域の関心や文化的な違いなどの社会的側面についても検討した上で、地域と向き合うことが重要。

③研究開発

- 各国が自国の研究施設や人材や知見や資金を効率的に活用して研究開発を進めていくことが重要であり、各国が研究分野について具体的な関心がある領域を示し、各国間で研究開発協力を強化していくべき。
- 各国のプロジェクトを海外の専門家にレビューしてもらうことは、人々の信頼を高めることに役立つ。他国も同じ課題を抱えており、他の多くの国が同じ課題に同じ手法でアプローチしている事実が、ステークホルダーの納得感を高める。
- 地下研究施設や放射性物質を扱える分析設備等は、全ての国が保有しているものではないため、国際協力の余地が大きい。

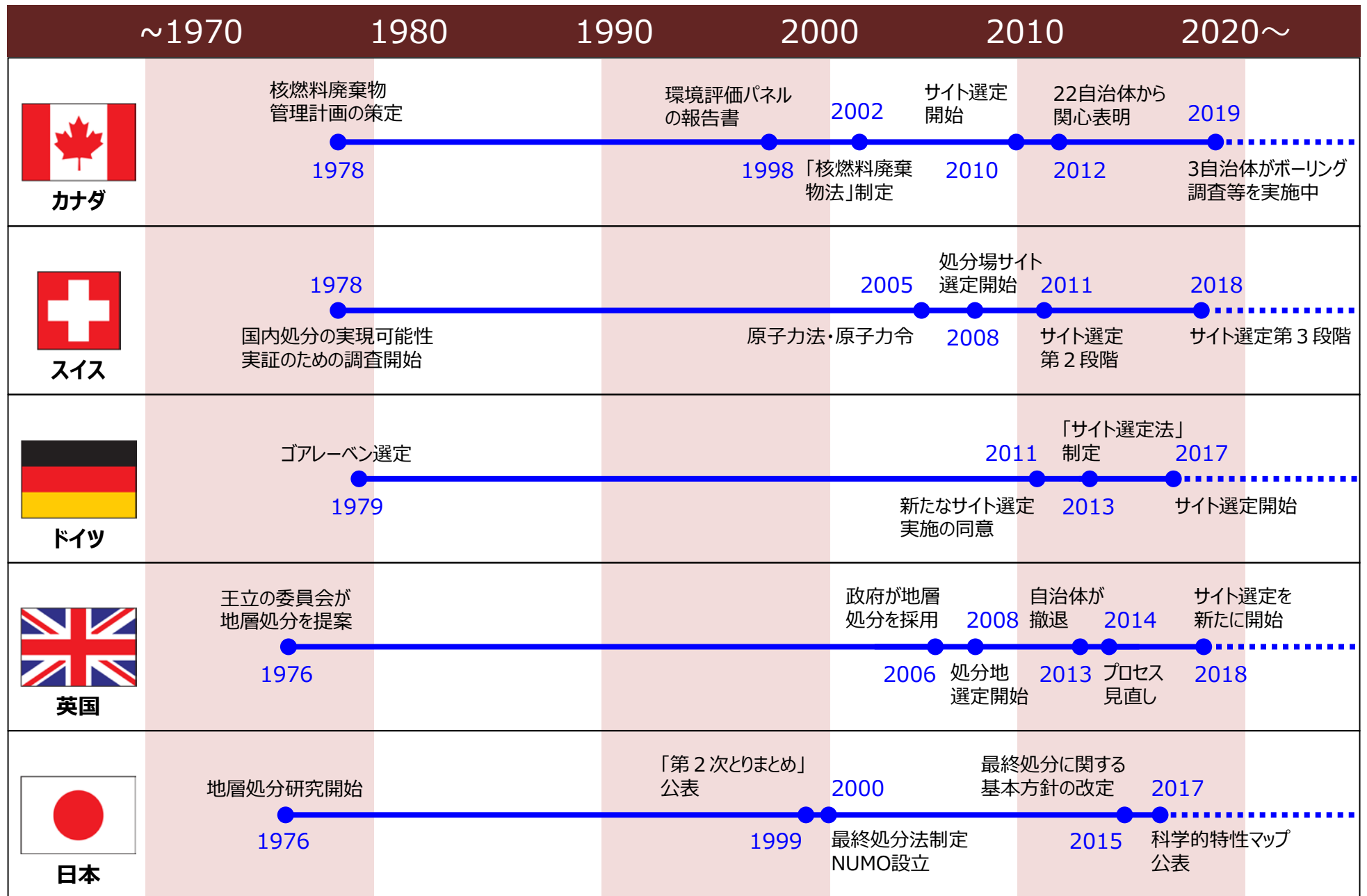
(参考) 各国の進展状況

● 各国でも、最終処分の実現に向けて、数十年以上にわたり、弛まぬ努力を続けている状況。



出典：「諸外国における高レベル放射性廃棄物の処分について」経済産業省資源エネルギー庁（2019年）ほか

(参考) 各国の進展状況



出典：「諸外国における高レベル放射性廃棄物の処分について」経済産業省資源エネルギー庁（2019年）ほか